

公開講座「ボランティア養成講座」

～ 調布市における子ども・若者支援活動と電通大生 ～

1. 目的

電気通信大学が所在する調布市では、家庭の諸事情により進学や就職を諦めてしまうようなことがないよう、子ども・若者に対して学習支援や居場所を提供する取組を行っている。

本講座は、そうした支援活動に取り組む方々を招き、学習支援ボランティアの必要性和役割について講演していただくとともに、当該活動に実際に関わる学生にもボランティア活動体験談とその意義について話をしてもらうものである。

2. 開講日時・場所・参加者数

日 時：令和2年12月1日（火）16:30 - 17:30

場 所：電気通信大学東5号館241教室（Zoomによるオンライン同時配信）

参加者数：一般市民及び本学学生・教職員 34名（うちオンライン受講29名）

3. 講座概要

開講にあたり、司会を務める電気通信大学 武石 典史教授から、大学にとって、所在する地域との社会連携、地域貢献は極めて重要な使命であることから、調布市がどのような課題に直面し、福祉等の専門家がその解決に向けてどのように対応し、そして電気通信大学関係者がいかに関わっているのか、それぞれの当事者が状況を共有することで、今後の電気通信大学と調布市、調布市民との望ましい関係を考えるきっかけとしたい旨の本講座の趣旨説明があった。

続いて、調布市子ども・若者総合支援事業「ここあ」 田村 敦史氏から「調布市社会福祉協議会ここあについて」と題し、「ここあ」の事業（相談事業、学習支援事業、居場所事業）の紹介とその強みや、実際の現場の様子、支援に取り組む上での難しさなどについて講演があった。また、学習支援事業の中で重要な役割を担う学生ボランティアの中で大きな割合を占める電気通信大学の学生の活躍についても紹介があった。

次に、電気通信大学情報理工学域2年生 名執 陸さんから「ボランティアの楽しみ方」と題し、「ここあ」における学習支援やその他の障害者支援、被災地支援など、これまでに参加したボランティア活動の紹介とそれらから学んだことについて話があった。また、自分の経験と学びのためにボランティアをするという意識・目的を持って取り組むことでボランティアを楽しむことができる旨の話があった。

最後に、学習支援コーディネーター 西牧 たかね氏から「支えること・支えられること」と題し、学びについて悩む中学生の実例を挙げ、そうした生徒にとって「ここあ」における電気通信大学学生を中心とする大学生ボランティアは希望・憧れの存在にもなっている旨の話があった。また、「ここあ」が大学生にとっても出会いの場、自分の生きる意義を感じ

る場、人間とは何か・社会とは何かを学ぶ場となってほしいと願っており、「ここあ」の名前の由来のとおり、支援を受ける中学生・支援を行う大学生の双方にとって「ここから明日に歩いていく」ための場となるよう日夜活動している旨の話があった。

今回は、地域に関する身近なことで、学生も大いに貢献することができる取組をテーマにしたことから、質疑応答では、参加した学生から、こうした活動に対して周囲の学生にどのように動機付けをしていけばよいか、といった質問が上がるなど、参加者の関心も高く、盛況のうちに終了した。



調布市子ども・若者総合支援事業「ここあ」

田村 敦史氏



名執 陸 さん



西牧 たかね氏



奥野 剛史 電気通信大学社会連携センター長

(閉会の挨拶)